



千葉県立八千代高等学校 同窓会会報

令和3年3月号

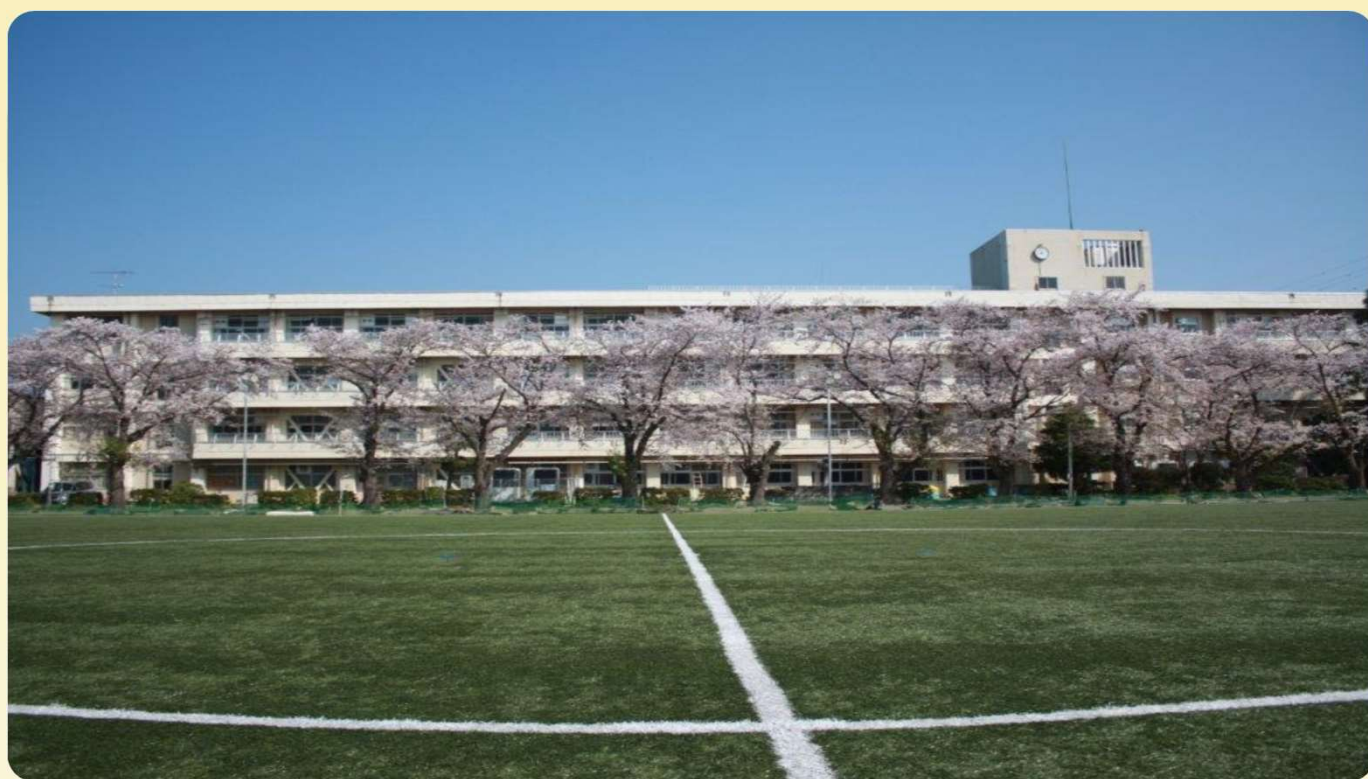
令和3年3月9日発行

発行：八千代高校同窓会

総会員数：19,746名



同窓会HP QR

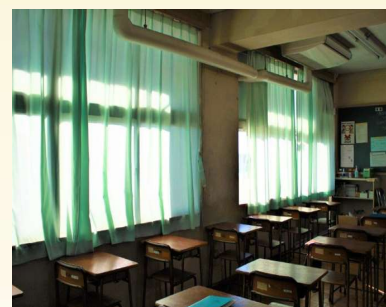


カーテンをリニューアルしました

コロナ禍によって働き方・学び方が大きく変わった1年が過ぎました。

本年度、同窓会では総額約300万円を掛け、夏季休業中に準備室を含む教室用カーテンの交換を行いました。

本校のスクールカラーである「緑」を基調とした「淡いグリーン」のカーテンです。太陽からのまぶしい日差しはこのカーテンを通し暖かなやさしい光となって教室に降り注いでいます。教室から外を眺めると、グラウンドの人工芝の「緑」、遠くは野球場の外野の「緑」、体育の授業ともなると体操服の通称「ミドジャー」の「緑」と様々な「緑」がより映えるカーテンともなりました。今日も生徒は暖かな「緑」の光を浴びて勉強に励んでいます。



同窓会からのお知らせ

◆クラス会に補助金

- ・補助金額 1万円（1開催）
 - ・補助金交付期限 卒業後5年まで（但し、1年1回）
 - ・申請方法：申請書類をHPからダウンロードし、記入の上提出願います。
- 詳細は八千代高校同窓会担当職員までお問い合わせください。

◆令和3年度総会開催

同窓会総会を下記のとおり開催いたしますので、皆様のご出席をお待ちしています。

- ・期日 令和3年4月17日（土）
- ・時間 午後1時から
- ・場所 八千代高校八千代寮

*新型コロナウイルス対策で中止や変更となる場合があります。
出席の際にはHPで確認をお願いします。

◆役員紹介

会 長	立石 梅夫（S48年卒）
副会長	後藤 真（S54年卒）
”	金子 保敏（校 長）
書 記	月村 路子（H14年卒）
”	三浦 祐輝（H20年卒）
会 計	嶋崎 雄斗（H14年卒）
”	内藤 晴子（事 務 長）
監 査	稲垣 雄一（S48年卒）
”	丹治 行雄（S48年卒）
顧 問	桑原 妙子（S43年卒）
”	室井由紀夫（S45年卒）

HP <https://www.yachiko-dousoukai.com>

活躍する同窓生

同窓生には、スポーツ界、芸能界、実業界などで活躍している人がたくさんいます。今回はコロナ禍の中、医療分野で活躍する同窓生を紹介します。

「故郷勝田台で開業12年目です！」

うのクリニック 院長 宇野史洋（昭和55年3月普通科卒）

私は勝田台で育ち、勝田台小、勝田台南小（転入）、勝田台中を経て、八千代高校（以下本校）に入学しました。小中学校時代は喘息で休みがちで、主治医は大久保内科の大久保哲夫先生でした。本校入学後に自転車通学を始めたことで、心肺機能が改善しました。

病弱だった私が目指したのは、大久保先生のような医師です。大学病院医師よりも開業医に親近感と敬意を感じていました。3年次学級担任だった越牟田哲朗先生から自治医科大学受験を勧められました。総合診療医養成を目的として設立された大学で、学風に共感し志望校としました。一浪を経て、入学しました。

卒業後は県内各地の国保病院に勤務し、総合診療技術習得に励みました。大学指定の義務年限9年間で満了し、さらなる挑戦として外務省に転身。在モンゴル日本国大使館勤務で、視野が広がりました。

帰国後は大学に戻り、診療、研究、教育に従事しましたが、いつか故郷に戻ると決めていました。平成19年に大久保内科閉院の報を知り連絡すると、先生は私を覚えていてくださり、同跡地で開業する話がまとまりました。

開業後、各母校の学校医を目指し、勝田台小、村上小、阿蘇小、勝田台中、八千代松陰中に加えて、念願の本校学校医を平成26年から承っています。さらに、在校時に同級であった金子保敏校長先生の御高配で、令和2年から本校産業医を兼務しています。大変光栄なことです。生徒たちは皆輝く目ではきはきと挨拶してくれます。うれしく頼もしく感じます。検診などで本校を訪問するのが楽しみです。本校は文武両道の優秀な高校です。在校時、私は受験に気を取られ部活動をせず、空虚な3年間で過ごしました。部活動に燃える生徒を応援しています。

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっています。生徒の皆さん、特に3年生は、修学旅行や学園祭、最後の部活動や大会さえ中止になり、つらい状況ですが、家族、先生、友人と助け合いながら感染症を克服する、そんなシナリオに期待します。この希有なる体験をプラスに転じ、後輩や子孫に伝えられれば、有意義な高校生活になると信じます。誰もが手洗いやマスク装着など、今できることを粛々と行えば、そう遠くない時期に必ず収束します。清潔観念が身につくなど、良い影響も期待できます。

私も自院の職員も発熱外来やPCR検査などを施行して、この厄介な感染症と毎日戦っています。本稿が上梓される頃にはコロナ禍が治まっていることを祈っています。



コロナ感染の防止のために防護具でPCR検査を施行



モンゴル ウランバートル近郊
テレルジにて

略 歴

- 1980年 八千代高校卒業
- 1987年 自治医科大学卒業
- 1987年 国保松戸市立病院
- 1989年 鋸南町国民健康保険鋸南病院 内科
- 1991年 国保松戸市立病院 消化器内科
- 1993年 組合立東陽病院 内科
- 2000年 外務省（在モンゴル日本国大使館一等書記官兼医務官）
- 2002年 自治医科大学 地域医療学兼総合診療部
- 2003年 国保多古中央病院 内科
- 2006年 医療法人社団育誠会北総栄病院 内科
- 2008年 うのクリニック開業 現在に至る



「コロナ禍における臨床検査技師」



心電図検査



脳波検査



在学中体育祭にて（前列左）

聖路加国際病院 臨床検査技師 石井理穂（平成22年3月普通科卒）

2020年4月緊急事態宣言発令、現場に緊張が走り、そんな現場で私は臨床検査技師として奮闘していました。未曾有のウイルスによる恐怖からか、外来患者は減り、さまざまな検査の中止、感染対策による制限が余儀なくされ、さらにマスク、防護服の不足といった経験したことがない状況で困惑していました。また、医療従事者差別や検査数の批判が臨床検査技師という職業を否定されているようにも感じていました。しかし、私はこの職業に誇りをもって職務にあたっています。

私の職業である臨床検査技師は、あまり知られていない職業です。しかし、その業務は多岐にわたり、大まかに分けて検体検査と生理機能検査があります。現在、私は生理機能検査室に所属しており、心電図検査、脳神経検査、肺機能検査といった数十種類の検査を担当しています。他に採血業務、夜勤では輸血業務をしています（夜勤は年々辛くなってきました…笑）。また、それぞれの分野において専門的な知識が必要となり、検査結果から医師に助言することもあります。医師看護師に比べると患者と深く関わることはなく、あまり感謝されることはないです。しかし、検査結果によって診断や治療が決定されていくため、臨床検査技師は縁の下の力持ちであり、存在なくしては医療が成り立たないと考えています。そして多くの方に臨床検査技師という職業に少しでも興味を持って頂きたいです。

私が臨床検査技師を目指し始めたのは八千代高校入学の時です。当時、先輩体験談で臨床検査技師を目指している話を読み、興味を持ち始めました。調べるにつれ、興味から医療に進み、臨床検査技師になりたいという目標に変わりました。そのため、高校生活＝勉強という印象があるほどひたすら目標のために勉強に打ち込んでいました。そのためクラスでは寡黙な印象があったかもしれないです（本当はそんな性格ではないのですが…笑）。もちろん勉強以外でも思い出はあり、文化祭での影絵、球技大会、体育祭でのフォークダンス等、様々な思い出がかけがえのないものです。今でもオレンジと緑の組み合わせをみると八千高カラーだなあと感じたりもします。

同窓生には結婚、育児、転職などさまざまな分岐点にたっている人、後輩たちには大会の中止等で悔しい思いをしている人もいます。私自身も将来のビジョンがみえないことが多く悩む日々ですが、今目の前にある一つ一つが自分にとって大切なことであり、今後の人生に必ず役に立つと信じています。この大変な状況下ですが、共に頑張っていけたらと思います。

最後になりましたが、私の文章で少しでも臨床検査技師を理解してもらえたら嬉しいです。この経験したことがない世界で不安もありますが、私は臨床検査技師という職業に誇りを持ち、また明るい世界が戻ってくることを願いながら、医療に携わっていきます。

略 歴

- 2010年3月 八千代高校卒業
- 4月 東京医科歯科大学医学部保健衛生学科入学
- 2014年3月 東京医科歯科大学医学部保健衛生学科卒業
- 臨床検査技師国家試験合格 取得
- 2014年4月 聖路加国際病院 臨床検査科 入職
- 臨床検査科輸血部 配属
- 10月～現在
- 臨床検査科生理機能検査室 配属
- 2016年9月 第2級臨床検査技師神経生理 取得





栄光の記録

2020年度に大会に出場した部活動などを紹介します。

ソフトボール部 千葉県新人体育大会ソフトボール競技 ベスト8

顧問 川崎希美、鹿野美彦

年度当初から、今年度は大会が開催されるのか心配を抱えていましたが、8月に代替大会が開催され、11月には例年通りの形で新人戦も行われました。一つの大会を実施する為に、様々な方が力を尽くしてくださっていることを改めて感じ、選手・顧問ともに感謝の気持ちを抱きながら大会に参加しました。

新人戦では、昨年度の新人戦の結果を引き継ぎCシードとして大会に臨みました。初戦、八千代松陰との試合は苦しみながらも1-0で勝ち、その勢いで千葉北にも勝利し、ベスト8を死守することができました。この大会の結果を受け、3月下旬に開催される関東公立高校大会へ出場することが決定しました。昨年度は大会への出場権を得ていたものの、コロナの影響で大会が中止となってしまったため、2年生としては念願

の関東公立大会出場となります。県外の力のあるチームと試合をする貴重な機会です。春までにチーム力を向上させ、大会で存分に力を発揮できるよう練習に励みます。

総体まで残された大会はあと2大会です。総体で自分達のベストプレーができるよう、日々真剣に、向上心と克己心を持ち活動していきます。



陸上部 女子4×100mリレー全国大会で本校歴代最高記録！

顧問 松本 健、伊藤雄剛、佐藤史子

令和2年10月16日、日産スタジアムにて八千代高校女子リレーチームは悲願の全国大会の舞台に立ちました。

新型コロナウイルス感染拡大によりインターハイが中止になり、今年の全国ランキング上位40チームに出場権が与えられる全国高等学校陸上競技大会の出場を目指し、見事出場権を獲得しました。

入学当初からメンバー全員が3年次のインターハイ出場、そして「全国で戦えるチームになる」を大きな目標にしていました。しかし、メンバーの試合直前での怪我、2大会連続県大会決勝でのバトンアクシデントなど困難の連続で何度も悔し涙を流してきました。だからこそ、この全国大会にかけける思いはどの学校よりも強くありました。森澤佳菜、高木紗樹、山田美南、上田紗椰の走者4名に加え、リザーブ3名（仙田結乃、宮本萌衣、ベジェロン真依楓）で繋いだタイムは47秒19。残念ながら決勝進出は果たせなかったものの

八千代高校歴代最高記録であり、全国の強豪チームと堂々と互角に競うことができました。

多くの困難を乗り越え、どんな状況でも諦めずにひた向きに努力し続けたチームがこの日、目標にしていた「真に全国で戦えるチーム」になった瞬間でした。

NISSAN STADIUM				HR
全国高等学校女子4X100mR				
予選	2組	5組1着+3		
1	相洋	神奈川	45.97	
2	市立船橋	千葉	46.54	
3	龍谷大平安	徳島	46.89	
4	八千代	千葉	47.19	
5	山形中央	山形	47.52	
6	宝治山田南	山形	47.68	



写真部 第27回全国写真選手権大会（写真甲子園2020）南関東ブロック出場！

顧問 吉田 成穂、石橋 優理

写真甲子園の初戦は毎年6月に行われていましたが、今年は8月に延期され、Webを中心とした運営で開催されました。休校により活動が少なくなっていた中、前年度から検討していた「路地裏の日常」というテーマのもとで、入部したばかりの1年生もメンバーに加えて撮影や選考を重ね、8枚の組み写真で参加しました。日常の中に学校の美しい一瞬をさまざまな視点から捉えた作品の中には、部員達と一緒に出かけ撮影した写真部活動の“日常”の意味も込めた写真も取り入れました。

初戦を見事通過し、ブロック審査会は初出場。千葉県からは3校だけが出場できたブロック審査会では、プロの方から自分達の作品のレビューをしていただいたほか、他の学校の

作品を見たことで、様々なアイデアや表現方法に気づかれ、とても勉強になりました。また、ブロック審査会出場の副賞としていただいたデジタル一眼カメラは今後の活動で活用していきたいと思います。

写真部では、フィルムや印画紙などを現像する活動を約7年ぶりに復活させたり、合宿や校内フォトコンテストを初開催したりと、新たな取り組みに挑戦し続けています。これからの写真部の活動にもぜひご期待ください。（3年C組 角田 智哉）





吹奏楽部

2020日本管楽合奏コンテスト優秀賞！

顧問 川口みずず、関 直一、石塚芽衣

2020（第26回）日本管楽合奏コンテストにおいて、県予選審査会では最優秀賞となり、全国大会に出場を果たし、優秀賞を受賞しました。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、動画審査となり、撮影を八千代市市民会館で行いました。

同コンテストは、管打楽器および吹奏楽に関する研究・調査・啓発を行うとともに音楽文化の向上を図り、学校教育、生涯教育における管打楽器および吹奏楽の充実・発展に寄与することを目的としており、その一環として、以下の目的に沿って「日本管楽合奏コンテスト」を開催するというものです。

- 1) 「独自のサウンド」の研究を行う。
- 2) 管打楽器合奏を主体として、同属楽器アンサンブル・声楽・電子楽器・弦楽器との融合について研究を行う。
- 3) 時代様式、演奏様式、個人様式などの追求・研究を行う。

コロナ禍で、演奏会がほとんど開催されない中、同コンテスト開催にあたり、部員全員で息をあわせて演奏するよい機会となりました。



鼓 組

「2020こうち総文」出場！

鼓組顧問 野中伸康、丸田陽子、小松定詳

私たち鼓組は、第44回全国高等学校総合文化祭「2020こうち総文」郷土芸能部門大会に出場しました。本来であれば8月3日から高知県須崎市へ遠征する予定でしたが、Web上での開催となりました。

3月から練習活動だけでなく、例年参加している演奏会も軒並み中止となり、さらに鼓組最大のイベントである「鼓組夜祭り」も開催できなくなり、特に3年生にとってはショックが大きく、事態を受け止めるのに時間がかかりました。それでも何とか自分たちの演奏を形に残そうと話し合いを重ね、7月26日に八千代市市民会館大ホールで「獅子～勝田の獅子舞～」の演奏を撮影することができました。

十分な時間はとれませんでしたでしたが、互いの息をピタッと合わせ、ダイナミックかつ繊細な演奏を実現できたのはさすがでした。そして何よりも、演奏している部員一人ひとりの生き生きとした姿を見ることができて「本当に和太鼓が好きなんだなあ」とあらためて実感しました。Web上での審査

結果はA評価。「地域の伝統や芸能を巧みに表現した素晴らしい楽曲とパフォーマンスでした」といった講評をいただきました。

まだまだコロナ禍での活動は続きます。鼓組としてどのような演奏ができるのか、いろいろと模索しながら取り組んでいきたいと思います。



【代替大会の報告】

* 新型コロナウイルス対策で高校総体や夏の甲子園などが中止となりました。

◆男子バレーボール部

第73回全日本バレーボール高等学校選手権大会千葉県代表決定戦

1次ラウンド（地区大会）・2次ラウンドが総体の代替大会となりました。

（八千代高校は2次ラウンドから出場）

2次ラウンド1回戦 八千代 2-0 木更津

2次ラウンド2回戦 八千代 2-0 松戸馬橋 最終ラウンドへ

最終ラウンド準々決勝 八千代 0-2 市立船橋

◆女子バレーボール部

選手権予選大会 新チームで1勝

◆野球部

2020夏季千葉県高等学校野球大会 地区トーナメント 第5地区 3回戦

◆ソフトボール部

関東予選、県総体が中止。オープン参加で代替大会が開催38チームが参加
本校は1・2年生のみの参加



青春群像

現在、八千代高校では、運動系16部、文系12部、理系3部が活動を行っています。今回は4つの部活動を紹介します。

野球部

顧問 中川善貴、阿部賢太郎、吉澤律雄



野球部は現在、選手1年生9名、2年生15名、マネージャー4名の計28名で活動しています。現チームは“凡事徹底”をスローガンに掲げ、練習前にそれを声に出し心一つにして練習に励んでいます。もちろん好きな野球だけでなく、近隣の清掃活動や「クリスマスベースボールin八千代」の手伝いなども行っています。

また、ここ数年で野球場にたくさんの方が足を運んでくれています。元プロ野球選手や社会人野球経験者、OB・OGの方（OB戦が行われました）、近隣のちびっこ（野球遊び・体験を行っています）などです。部員は多くの方と接する中で人付き合いを学び、色々な体験や経験を通じて人間的に成長をしていると日々感じています。これからさらに心身ともに鍛え、春・夏に向けて最高のパフォーマンスができるよう精進して参ります。八千代高校の歴史を彼らが作ってくれることを信じ・・・。

終わりに、父母会やOB・OG、地域の方々の御支援御協力のおかげで、野球に打ち込める毎日を過ごさせていただいております。選手・スタッフ一同感謝しております。この場を借りて御礼申し上げます。

剣道部は週6日稽古、1日休みで活動しています。月曜日は7限まで授業があるので素振り、木刀による剣道基本技稽古法、日本剣道形を1時間。火～金曜日は、稽古を1時間半。土、日曜日は、他校との合同稽古、練習試合などを行っています。

現在、部員は3年生男子1名、女子1名、1年生女子2名と少ないですが、そのことに負けずにこれからも生涯にわたり継続できる剣道を目指し、基本を大切に稽古に励んでいきたいと思っています。



剣道部

顧問 鈴木和之、中村智明



クイズ研究部

顧問 外丸精一、小林英樹



クイズ研究部は令和元年度に発足したばかりの新しい部活動です。前の年の1年生がクイズ研究部を作りたいと活動を始め、自ら顧問を探し出し、活動場所もいろいろな教室と交渉して見つけ出しました。承認される前は、一部の先生から「実績がない」「きちんと活動できるのか」「いきなり部活としては認めるのかどうか」など心配する声もありました。

しかし、この部活動は、通称「クイ研」とも呼ばれ、全国の多くの高校に存在します。テレビ番組などで見られるクイズ番組でも高校のクイ研が多く登場しています。特に、進学校と呼ばれる学校にはクイ研が必ずといっていいほどあるので、八千代高校にもクイ研が発足したことは少し誇らしくさえ思います。発足時は、創部に活躍した2年生を中心に10名の部員で活動を始めましたが、活動の様子に興味を持った1年生が次第に入部し始めて6名を数え、賑やかに活動をするようになりました。放課後には、活動場所の生物実験室でピンポンボタンの鳴る音やお互いに問題を出し合う生徒の大きな声などが聞こえます。

令和2年度は、残念ながら新型コロナウイルスの影響もあり、新入生の加入状況はあまり芳しくなく、活動制限もあって賑やかさも鳴りを潜めてしまいました。しかし、これから他の運動部の活躍に負けないように、八千代高校を代表するような部活動になれるようにと、志を高く、盛り上げて活動していきたいと思っています。

音楽部

顧問 柏山佳輝、石井清士



音楽部は2年生3名、1年生11名で週3回放課後に楽しく活動しています。
主に最近のJ-POPを合唱に編曲したものを練習し、演奏をしています。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で思うように活動できていませんが、通常は6月と12月に音楽室で行うミニコンサートを活動の中核としています。

9月の文化祭でも発表の場を設けています。今年度の9月の文化祭で社会的距離をとるという要請の中、なんとかコンサート実施にこぎつけ、校内公開のみだったにもかかわらず、予想の倍以上のお客様にいらしていただきました。

今後も、感染症対策を取りながら楽しく活動していこうと考えております。

[illegible]

光よ若き花に降れ

新しく八千代高校に赴任した先生や八千代高校OBの先生などを紹介します。

「八千代高校に赴任して」



教頭 工藤秀昭

昭和58年4月入学、昭和61年3月卒業、平成2年6月の2週間だけ教育実習、平成18年から同23年数学科教諭として在職、平成31年4月から教頭として赴任し、今年度で2年が経ち、現在に至ります。これが私と八千代高校の直接的なつながりです。いつ戻ってきても時代の流れに合わせた発展があるものの、真の部分では変わらぬ姿で迎えてくれるように感じます。それは八千代高校独特の時間の流れであったり、校舎内の配置であったり、責任感が強く日々の積み重ねの大事さを知っている生徒たち、……、いつ戻ってきても、私が迷うことなく過ごせる安心できる場です。この「やちこう」への思いを大切にしつつ、八千代高校の力となるべくこれからも頑張っていきます。どうぞよろしくお願いいたします。



八千代高校時代

私は成田方面から勝田台駅に通学する生徒で当時の言葉を使うと「おのぼりさん」だったので、卒業後も、京成電車に乗ったときには、勝田台駅を少し過ぎると見える「我が母校」を見上げ、「今日もがんばってきます」そして我が母校は「いってらっしゃい」という無言のやり取りをかわす毎日を過ごして八千代高校とともに成長してきました。

そして、新聞に八千代高校の名前が出ていれば、一喜一憂する自分の姿がどんな時にもありました。きっとこの姿は同窓生の皆様も同じであらうかと思います。今後も八千代高校を支えていただき、そして八千代高校とともに御成長し、多くの御活躍されることを期待しております。

「回顧：八千代高校サッカー部」



体育科教諭 岡本一洋

全国高校サッカー選手権大会準決勝の国立競技場、大雨で水溜りができるほどのピッチで後半アディショナルタイムに失点。全国制覇まであと2勝のところで私の高校サッカーは幕を閉じました。当時、八千代高校は華麗なパスサッカーで注目され、優勝候補筆頭として名前が挙がる魅力的なチームでした。そんなチームの最後が大雨でピッチコンディションがとても悪い中でのゲームだったというのはなんととも皮肉なものでした。「日頃から一生懸命やってきたからこそまで来れた。適当なことをやっている人にこんな想いはできない。プロセスが大事なんだ。」敗戦後のロッカールームで当時の監督が話された言葉です。

私たちが過ごした高校3年間は非常に質の高いものだったように思います。トレーニングへの姿勢、コンディショニング管理、人間関係作り、勝負へのこだわりなど、取り組んできた「プロセス」に一切の妥協はありませんでした。日々の取り組みや努力が結果に反映される場合とそうでない場合があります。結果というものを思い通りにコントロールすることはなかなかできるものではありませんし、その事実を変えることはできません。しかし、結果の意味を変えていくことはできます。その意味に深さや広がりを持たせようとするのであればやはり、プロセスを大切にしないといけないと思っています。



八千代高校サッカー部時代

八千代高校の皆さんはどのような目標を持って入学し、プロセスを踏んでいるのでしょうか。目標達成のためには計画性のあるプランと熱い想い、そして行動力が必要になってきます。人生1度きりのこの貴重な3年間で志高く、大切な時間にしてほしいと思います。

(平成17年3月体育科卒)

八千高ニュース

昨年、八千代高校の出来事や話題になったことなどをお届けします。

体育科遠泳実習

遠泳実習は、高等学校学習指導要領スポーツⅤ（野外活動）の自然体験型野外活動の理解と実践の内容として3年生の体育科が行っています。例年7月第1週、1泊2日、南房総市岩井海岸で初日、中遠泳（約1時間）、ミーティング、2日目、大遠泳（約2時間）を行い、生徒、引率職員とも気の抜けない、時に命がけとなる場面もある実習です。

しかしながら、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で遠泳実習をどうするかと校長先生、教頭先生、体育科職員で昨年度末より検討を重ね、岩井海岸ではなく千葉県国際水泳場（習志野市）を借りて1日での実習となりました。生徒は6月より泳法の習得、泳力の向上、隊列の練習などを授業で行い当日に備えました。

当日は、大遠泳（約2時間）を全員が泳ぎ切ることができました。残念ながら、海での遠泳実習はできませんでしたが伝統ある実習を新型コロナウイルスに負ずに実施できました。

新型コロナウイルスが来年度の実習にどのような影響を与えるかはわかりませんが、守り続けていきたいと思えます。

（文：中村智明）



パラリンピック講演会

パラリンピックをとおして差別のない「共生社会」について学ぶ機会として、2年生生徒を対象に、日本障がい者スポーツ協会常務理事高橋秀文氏を講師にお迎えし、9月3日（木）に講演会を開催しました。

講師の高橋氏は、東京ガス株式会社にて執行役員などを務められた後、平成27年度に日本障がい者スポーツ協会に着任され、現在、日本パラリンピック委員会副委員長として、障がい者スポーツの最前線で活躍されています。高橋氏からは実体験として明るく魅力あふれるパラアスリートの素顔に触れて心を動かされた話とともに、「社会変革の祭典」としてのパラリンピックの成功の重要性を熱く語っていただきました。

講演会后、新聞・テレビの取材を受けた生徒からは、「将来自分自身も共生社会の実現に貢献したい」と感想が述べられていました。これからの新しい時代を生きる八千代高校生たちには、障害のある無しにかかわらず活躍できる「共生社会」をけん引する人材に育つことを願っています。

（文：進藤周介）



やちパンプロジェクト

やちパンプロジェクトとは八千代産学官協同ネットワーク事業として平成29年から始まった取り組みで今年度で4回目となります。

「もしも女子高生がパンを作ったら」というコンセプトで、八千代高校家政科3年生が八千代の特産品を使ったパンを考案して、市内のパン屋さんが試作・商品化しています。毎年12月初旬2週間程度の期間限定販売ですが、年々注目されるようになり、地域で非常に喜ばれています。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、休校・休業で開催も危ぶまれる状況でしたが、7月に入り例年より3か月遅れて実施に向けて動き出しました。コロナ禍の中、ZOOMでの打ち合わせ、八千代市長定例会見でのプレス発表、千葉県庁での生徒の1日限定先行販売など、敢えて新しいことに挑戦した今回のやちパンプロジェクトは、多くの方に知っていただくきっかけとなり、生徒たちの自信につながったと思います。

（文：丹治由夏）



家政科リモート授業

家政科2年生の授業に「生活産業基礎」があります。この科目は家政系の専門学科の生徒は必ず履修するもので、衣食住やヒューマンサービスなどに関する職業の学びを目的としています。本校では「プロに学ぶ」ことを主体として、毎年多くの講師お招きし、生徒はさまざまな職業の魅力に触れてきました。しかし、今年度は外部から講師を招くことが難しい状況が続き、毎年行っていたデザイン画の講義は、従来の授業にこだわらず新しい試みとして、ZOOMを利用したオンライン授業を実施することとしました。

授業当日は、家庭科講義室のスクリーンに今回の試みにご協力いただいた杉野服飾大学の数井靖子先生が映し出されて、講義して頂きました。実際に描くところでは先生の手元に画面が切り替わり、生徒は画面を見ながらあらかじめ大学から送られてきた画材を用いて、初めてのデザイン画に取り組みました。生徒は描いたものを画面に映し出して、先生からコメントをもらったり質問をしたりして、デザイン画を完成させることができました。

（文：丹治由夏）



編集後記

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。
この同窓会会報は、同窓生と八千代高校を結ぶ架け橋です。母校がどんな様子か、後輩たちがどんなに頑張っているか、先輩たちがどんな活躍をしているか、などを盛りだくさんでお届けいたします。昨年はコロナ禍により大変悔しい思いをされた方々も多いと思います。学び方・働き方も大きく変化

した中、それぞれの環境に対応し、令和3年度が皆様方にとって躍進の年となりますように祈念いたします。

末筆ながら、お忙しい中、原稿を寄稿くださった方々に深く感謝申し上げます。（編集長 後藤 真）

発行人：千葉県立八千代高等学校同窓会 会長 立石 梅夫

編集：同窓会報編集委員会

八千代市勝田台南1-1-1（八千代高校内）047-484-2551